

ぶどうの樹

2015.01

NO. 15



写真：全学クリスマス礼拝2014（2014.12.17）

INDEX

特集1: アクティブラーニング

特集2: 就活体験記

5 長崎がんばらんば国体

7 同窓会からのお知らせ / 保護者会だより

8 チャペル通信：映画紹介『標的の村』

9 寄付事業

特集 アクティブラーニング

アクティブラーニングとは？

みなさんは「大学の授業」と聞いてどのような形式の授業を思い浮かべられますか？大学の授業といえば、大人数の学生が受講する講義形式の授業を最初にイメージされる方が多いかも知れません。しかしこのところ先生が一方的に学生に向かって話をするという授業が見直されています。どのような授業が効果的であるかについての研究が現在では盛んに行われており、その結果一方通行の講義型の授業では多くの学生が知識を身につけていないということが明らかになってきました。そこで注目されているのが「アクティブラーニング」です。これは学生が「主体的に頭を使って考えながら学ぶ」ことを意味します。一方通行の講義型の授業では学生は教員の話聞き流すだけで頭を使っていないのです。

教室が変われば授業が変わる！？

ではどのようにすれば学生が「主体的に頭を使って考えながら学ぶ」ようになるのでしょうか？この点は多くの大学で試行錯誤中なのですが、効果があると考えられているものの一つが「グループワーク」です。グループワークでは与えられたテーマにもとづいて学生たちが議論することになるので、自然と主体的に頭を使って学ぶようになります。そうした実践的な議論の中でやりとりされた知識は学生の頭の中にしっかりと定着することが研究からもわかっています。また学習した内容を人前で発表（プレゼンテーション）することもアクティブラーニングの重要な要素であると言われています。そうしたことから授業の中に

いかにしてグループワークやプレゼンテーションを取り入れるかが授業設計をする際のポイントとなるのです。こうした流れを受けて本学ではアクティブラーニングをサポートできるように教室が様変わりし、多くの教室に可動式の机、イス、ホワイトボードが導入されました。机とイスが可動式になったことで「島」を作ってグループワークがしやすくなりました。また、そのグループワークでの議論をまとめてプレゼンテーションするときには小型のホワイトボードが活躍します。



新たな学習空間

コスタ

スペース

CoSTa Space

通常の教室以外にも学習スペースが増えました。それは学生食堂奥に2013年に整備されたCoSTa Space (Co(共に)Study(学んで)Tanoshii(楽しい)空間)です。このスペースは土足厳禁で、カーペットが敷かれているため快適に長時間学習することができます。ここにも可動式の机、イス、ホワイトボードが設置されており、学生のアクティブラーニングをサポートしています。ここは授業で利用されることもありますが、基本的には学生たちの自習スペースです。最近では授業の宿題として「グループでプレゼンテーションの準備をする」といった課題が出されることもあります。しかしながら図書館ではグループで話をしながら作業をすることができないため、こうしたスペースを導入しました(このようなスペースは一般的に「ラーニ

ングコモンズ」と呼ばれています)。

本学のCoSTa Spaceにはラーニングコモンズとして他大学にはない特色があります。それは「CoSTa サポーター」という組織があることです。「CoSTa サポーター」とは教職員の有志からなる組織で、CoSTa Spaceの運営をしています。現在18人の教職員がサポーターとして活動しています。具体的には1日7コマ×5日でシフトを組み、カウンター業務(ノートPC・図書の貸し出し、相談業務など)を行なっています。最近この組織の学生版である「CoSTa 学生サポーター」という組織も立ち上がりました。こちらはカウンター業務に加え、留学生との交流イベントなども行っています。

社会とともに学ぶ授業「プロジェクト科目」

このCoSTa Spaceをもっとも活用している授業が「プロジェクト科目」です。プロジェクト科目とは地域社会と連携しながらグループでプロジェクトに取り組む授業で、2011年に開講しました。これまで高校生と留学生が交流するイベントを企画・運営する「国際交流プロジェクト」や、障がい者の賃金向上に取り組む「障がい者と社会をつなぐプロジェクト」や、炭鉱の島「池島」の観光ガイドマップを制作する「池島コンシェルジュプロジェクト」などのプロジェクトがあり、成果を出してきました。学生たちは数人のチームを組みこうした課題に1年間かけて取り組みます。学生たちは課題を解決するためにCoSTa Spaceで、計画をたてたり、議論したり、役割分担をしたり、改善案を検討したりします。また学外の方と連携してプロジェクトを進めることもあります。こうした経験を通してチームワークを養い、社会に出るために必要な力を身につけます。



このように本学の授業は大きく変わり始めています。
変わらぬ建学の精神のもと、時代に応じた柔軟な教育を行なっています。

就活 体験記

長崎外国語大学の学生はどのように就職活動を進めているのか？
今回、卒業生と在学生の方に、ご自身の就職活動について語っていただきました。

就職活動を振り返って



卒業生

おおかわ さやか
大川 明夏 さん (現代英語学科 2014年3月卒業)
勤務先：三菱長崎機工株式会社

英語力を活かしながら充実した日々

4月に社会人となってから、早9カ月程が経ちました。現在は長崎に本社を置く製造関係の企業で、海外営業職として勤務しています。まだ本格的な営業の仕事はしていませんが、海外とのメールでのやり取りや英語を使う機会は多く、大学で身に付けた英語力を活かしながら充実した日々を送っています。

就職先は意外な業種

昨年就職活動をした頃は、まさか工場を併設するような会社で働くとは思っていませんでした。高校生の頃から海外や英語に対する興味が強かったため、ただ漠然と海外と関わりのある仕事ができれば、と考えてはいましたが、具体的にどういった業界で、どのような職種の仕事がしたいというような目標は、就職活動中もはっきりと見つけられないままだったように思います。あの頃を振り返ると、たった1枚のエントリーシートや履歴書の記入に、何時間も費やしていたことを思い出します。

仕事には得意・不得意が必ずある

大学生の時点で、自分に合う仕事やしたい事ははっきりと見つけることはほんとうに難しいと思います。私自身、最終的に就職先を決める際、内定を頂いた2社からどちらを選ぶべきか迷いました。もう1社は、今の仕事とは業界や職種も全く違っていました。

ただ私が就職してみてもうのは、一つの職業に対する仕事内容は様々だということです。どんな職業にも、自分の得意、不得意な業務が必ず出てきます。その中で、自信を持ってできることを見つければ、どんな仕事に就いてもやりがいが出てくるのではないかと今は感じています。

※大川さんは出張先の米国から寄稿してくださいました。お忙しい中ありがとうございました。(編集担当)

私の就職活動



在校生

みぞべ なつよ
溝部 夏代 さん (現代英語学科 4年)
内定先：楽天カード株式会社

就活は多くの業界を知ることから

私はもともとホテルや旅行業界に興味がありましたが、3年生の12月に就職活動を始め、業界研究を進めていくうちに、自分の知らない業界があまりに多いことに気付かされました。その後は業種を絞らずもっと多くの企業を研究するべきだと考えるようになり、大学の先輩や企業の社員の方にアドバイスをいただきながら自己分析も進めていく中で、会社の雰囲気や福利厚生のこともしっかりと調べるようになりました。

活動中の不安...

私は福岡を中心に活動していたため、交通費がかさみました。お金や時間を費やして多くの説明会に参加しても「ここだ!」と思える企業がなかなか見つからず、不安は尽きませんでした。そんなときは、就活の辛さを分かち合える友達と話し、お互いを励ましあうことで、モチベーションを保つことができました。

就活は長期戦なので精神的疲労が溜まります。そのため家族のサポートは本当に重要です。周りの友達が就活を終えていく中で就活を継続している人の場合は特に不安や焦りもあるので、そんなとき周りの方々は内定が出ないことを責めたりせず、そっと応援していただければと思います。

内定後も英語を猛勉強中

私は計12社の選考に応募しました。途中何度も諦めかけましたが、最初の内定をいただいた後も妥協することなく、後悔しないように納得するまで続けました。楽天カードに内定をいただき就活を終えたのは4年生の8月です。同社の営業戦略に共感し、また社員同士の関わりが強く、働きながらこれほど刺激をもらえる会社はなかなかないと思い、入社を決めました。社内公用語が英語ですので、入社までにTOEICの最高得点獲得を目標に頑張りたいと思います。

長崎外国語大学キャリアセンターからのお願い

本学学生の採用に関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、下記問い合わせ先までご連絡ください。
求人に関するご案内は本学HP (http://www.nagasaki-gaigo.ac.jp/career/employer/post_8.html) にも掲載しております。
語学力・人間力・コミュニケーション力を身につけた学生たちに活躍の場を提供いただければ幸いです。

■求人に関する問い合わせ先

〒851-2196 長崎県長崎市横尾3丁目15番地1号 長崎外国語大学 キャリア支援課
TEL : 095-840-2004 / FAX : 095-840-2204 / E-mail : career@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp

大 | 学 | 情 | 報

長崎がんばらんば国体・がんばらんば大会を 在校生および卒業生が盛り上げました!

長崎県では45年ぶりの国民体育大会「長崎がんばらんば国体・がんばらんば大会」が10月・11月に開催され、現代英語学科3年の船橋嘉一さんが総合開・閉会式で国体旗の旗手を務め、卒業生でシンガーソングライターのタナカハルナさんが公認応援リーダー「GRT600センター」に任命され、長崎県に集まる全国のアスリートの皆さんにエールを贈りました。



船橋君は日本ボーイスカウト長崎県連盟に所属しており、連盟からの推薦を受け式典スタッフを務めることとなりました。生まれ育った地で大役を務める責任と旗の重みを感じながら入場行進しました。また、がんばらんば大会の開・閉会式にも、式典スタッフとして参加しました。

タナカハルナさんは、国体の開会式オープニングプログラムとがんばらんば大会の開会式エンディングプログラムにおいて、がんばくん応援歌「はばたけ!がんばくん」を歌い、それに合わせて600名もの幼稚園児がダンスを披露し、式典に華を添えました。



アンペロス寮イベント報告

アンペロス寮が国際寮としてリニューアルしてからの約1年間、レジデント・アシスタント (RA) やその他の寮生が中心となり、以下のイベントを行いました。

- ・春季新入寮生対象オリエンテーション (3月26日、27日)
- ・春季歓迎 BBQ パーティー (4月12日)
- ・七夕祭り (7月7日~12日)
- ・秋季新入寮生対象オリエンテーション (9月16日・17日)
- ・秋季歓迎 BBQ パーティー (10月19日)
- ・フランス語専修主催クレープパーティー (10月23日)
- ・防災訓練 (11月24日)
- ・ポットラックパーティー (11月28日)
- ・クリスマスパーティー (12月18日)



主な社会連携・貢献事業 (2014年6月～12月)

- 6月23日 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と連携協定を締結
- 6月24日 時津公民館主催「シルバーとぎつ高齢者教室」講師(留学生)派遣
- 6月27日 長崎市立桜馬場中学校平和学習受入れ(留学生を対象に英語での紙芝居)
- 6月28日 第6回～語り合おう in Nagasaki～外国人による日本語弁論大会開催(共催)
- 7月26日～8月11日 滑石公民館主催「夏の子ども講座わくわく!ワールド(全4回)」講師(学生・留学生)派遣
- 7月29日 ANA 福岡空港株式会社と産学連携協力に関する包括協定を締結
- 8月2日～6日 語学セミナー 英語「ビジネス通訳入門」開催
- 9月3日 長崎県市町村行政振興協議会と包括的連携に関する協定を締結
- 10月5日 公開講座 テーマ:国際協力「長崎で始まった事:黄梨宗」[平和構築と国際協力に賭ける長崎]開催
- 11月9日 とぎつふれあい産業まつり(フラメンコ部・箏曲部出演)
- 12月13日 全国高等学校英語ポキャラリー選手権大会開催

本学では上記以外にも様々な社会連携・貢献事業を行っております。
2014年度(上半期)社会活動は本学ホームページよりご覧頂けます
URL: <http://www.nagasaki-gaigo.ac.jp/CCRCC/>



ANA 福岡空港株式会社との調印式



とぎつふれあい産業まつり(フラメンコ部)

第2回OB・OG会開催

昨年に引き続き、11月1日(土)・2日(日)に長崎外国語大学・短期大学の卒業生を本学に招き、OB・OG会を開催しました。

当日は本学の第1～10期の卒業生をはじめ、短大の卒業生も合わせて40名程の参加がありました。参加者は卒業アルバムや学校案内を見ながら学生時代の思い出話に花を咲かせ、お世話になった先生方との再会を楽しんでいました。第64回外語祭開催期間中であつたため、在学生や入学を検討している高校生の参加も多く、就職活動に関する相談や大学生活に関する質問をするなど、卒業生との交流を楽しんでいました。

また、シンガーソングライターで卒業生のタナカハルナさんの凱旋ライブを始め、仮装大会への出場、フリーマーケットへの出店等、今年は学内企画やステージ企画にも多数の卒業生が参加しました。

ご来場いただいた卒業生、教職員の皆さん、誠にありがとうございました!!



本学教員の著書紹介

たぐちたけふみ
田口武史(国際コミュニケーション学科准教授)著
『R・Z・ベッカーの民衆啓蒙運動
—近代的フォルク像の源流—』
鳥影社 2014年

ドイツ語の「フォルク」という語は、18世紀から19世紀への世紀転換期に「下層民/民衆」から「国民」に、さらに「民族」へとその指示対象が変化した。この変化がどのように進化したかを、18世紀末のドイツで活躍した啓蒙家 R.Z. ベッカーおよび同時代人の言説から解明することが本書のねらいである。当時の思想潮流(国家・国民観、共同体意識、教育観、文学)を社会状況(政治動向、産業政策、身分制社会、出版事情)と照らし合わせつつ、近代的フォルク像の成立過程とその文化的意味を検討した。

ベッカーと彼の主導した「民衆啓蒙運動」に関しては研究事例が乏しく、半ば忘れられた歴史となっているが、ドイツの近代化において彼の果たした役割はきわめて大きい。ベッカーの提唱により人口の大半を占める農民・民衆対象の啓蒙運動が全ドイツ的規模で始まり、同時に啓蒙のあり方が社会教育、国民育成の観点で盛んに議論されるようになったからである。換言すれば、ここをひとつの起点として国民国家の理念がドイツに広がっていったのである。さらにまた、民衆の社会的位置づけに関心を持った知識人たちは、民衆文化の価値も見直すようになった。この動きがグリム兄弟らロマン派による民衆文学賛美の呼び水となったことから、文学史に与えた影響も顕著である。

従来フランス革命という「分断」を前提として語られてきたフォルクの概念史は、ベッカーの民衆啓蒙運動を介在させることによって、屈折しつつも連続した流れとして浮かび上がってくる。その意味でこの思想運動は、近現代ドイツ文化史の研究に新たな視角を提供するであろう。



同窓会からのお知らせ

福岡・大分ブロック支部発足式開催について(ご案内)

卒業生の皆様には、お変わりなくお過ごしのこととご推察致します。

さて、平野同窓会会長様より福岡・大分ブロック支部を発足して欲しいとの要請を受け、森美津子と古瀬、坂口、森英子がお手伝いすることになりました。

支部作りは、長年の悲願でございましたが、昨年11月に関東地区支部が発足式を行ない、この度、大学・短期大学・専門学校の卒業生を含めた福岡・大分ブロック支部が発足することは、感慨深いものがあります。

つきましては、福岡・大分ブロック支部発足式を右記の日程で行いたいと、斯様に考えております。

その際は、是非母校と皆様と旧交を温めて頂きたく願っております。



どうか、同窓生にもお声をかけ、奮ってご参加下さいませようお願い致します。

記

- 1.日 時: 2015年2月22日(日)12時～15時迄
- 2.会 場: ホテル日航福岡 都久志の間
- 3.会 費: 5,500円
- 4.締切り: 準備の都合上、1月25日迄
- 5.問合せ先: 長崎外国語大学同窓会事務局
TEL 095-840-2010(直)

以上

長崎外国語大学同窓会

福岡・大分ブロック支部長	森	美津子
副支部長兼総務	坂口	登美子
会 長	計	古瀬
監 査	森	英子

保護者会だより

保護者会理事会では、2014年5月の定期総会で承認された事業計画に加えて、新規事業を幾つか企画し実行いたしました。保護者会の主たる目的として、学生の教育及び福利厚生に関する支援が挙げられます。学生達の活動を支援すると共に大学教育を支えるための事業についてご報告いたします。

<海外派遣留学 留学許可書授与式・壮行会> 大学ホール及びコミュニティラウンジ

例年より倍増した派遣留学生に対する留学許可書授与式並びに壮行会が2014年7月18日(金)に実施されました。授与式・壮行会には保護者会から佐藤会長が出席し、留学中も長崎外大に誇りを持って勉強して貰うため、オリジナルのワッペンを制作して留学する一人ひとりに渡し、激励しました。

この他にも10月に行われた「地区別保護者懇談会」では、各地の会場に保護者会役員が参加し、保護者会理事会の活動実績を報告すると共に保護者間での情報交換・交流の機会を持ちました。更に、12月17日に実施された「長崎外国語大学スピーチ大会」は、これまでの「暗誦大会」をレベルアップして、5か国語によるスピーチ大会として実施されたもので、この参加者全員に保護者会から参加賞を授与しました。

今後は、3月に行われる春季卒業式への支援、目標達成奨励金の授与などが予定されております。これからも保護者会理事会は、保護者の代表として学生生活がより充実するよう支援して参りますので、何卒ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

長崎外国語大学保護者会 会長 佐藤栄磨

<第64回外語祭 -No Border->

今年度の「外語祭」は11月1日(土)・2日(日)の両日行われ、急遽、保護者会も出店して「外大オリジナルTシャツ」を販売することを決定しました。この売り上げは全て学校法人長崎学院・長崎外国語大学「施設設備充実に関する寄付事業」へ寄付いたします。オリジナルTシャツは、留学生にも大変好評で、ほぼ完売しておりますが、一部残った商品は「長崎外国語大学ビジネス(株)」で継続販売しております。



『標的の村』

2013年：日本（制作・著作：琉球朝日放送）

今回取り上げるのは、訴えられてもなお「普通の暮らしがしたい」という一点でヘリパッド建設やオスプレイ配備に反対して健気に闘う住民たちを、沖縄の放送局が真摯に記録したドキュメンタリー作品『標的の村』です。

沖縄北部、山原の森が広がる東村高江地区は在日米軍の戦闘訓練場に取り囲まれ、住民たちは米軍のヘリが日常的に飛び回る下での生活を余儀なくされてきた。2007年、世界でも他に類を見ないこうした場所に、六つのヘリパッド（ヘリの簡易着陸場）を新設することが明らかになります。また、その爆音や死亡事故の多さで問題視されていた垂直離発着機オスプレイも配備されるらしいのです（つまりこの地で離発着訓練するという）。小さな集落とはいえ、長年にわたり高江で暮らしてきた住民たちは普通の暮らしができなくなると考え、同年7月から建設予定地で非暴力的抗議活動の座り込みを始めました。この後数年にわたり工事自体は着手されない状況が続きますが、座り込みを行っていた住民を「通行妨害」にあたるとして国が訴える前代未聞の裁判が起こり、座り込みを続ける住民たちに身体的・精神的苦痛をさらに負わせました。

2011年6月、頑なにひた隠されていたオスプレイの沖縄配備を日本政府がようやく明らかにし、1年後に公表された米軍の調査報告書で、高江に新設されるヘリパッドのなかには、年間1260回も訓練飛来するものがあることもわかりました。住民たちの想定が現実となったのです。

オスプレイの配備を目前にした2012年7月19日に、沖縄防衛局と建設業者は住民たちの座り込みを強制的に排除し、建設予定地への資材の運び込みを行いました。2012年9月27日から30日にかけて、オスプレイ配備予定の普天間基地の各ゲート前に、配備に反対する人々が押し寄せ、車を止め座り込んで封鎖する事態となった。沖縄県警機動隊が車と人を強制排除した翌日、10月1日午前11時20分、岩国基地から2機のオスプレイが初めて飛来した普天間基地に、高江の住民たちもいました。

この作品は、幼い子供たちが、裸足で畑の中をかけ回り、川で水遊びをするシーンから始まります。こうした長閑で穏やかな風景が、深淵で硬直した対立を生む先鋭的で殺伐とした光景へと展開していきます。ドキュメンタリー作品はメッセージ性が明確だと一般的には見られています。この作品でも、沖縄でもあまり知られていない（報道されない）「在日米軍基地」問題を、沖縄以外の人に知ってもらいたいという制作者側の強い思いが伝わってきました。

ドキュメンタリー作品では、そこに描かれている事実を知ったショックも大きいですが、それを知らなかった（あるいは改めて突き付けられた）という心理的衝撃の方が大きいことがあります。高江地区の住民たちとヘリパッド建設で対峙した沖縄防衛局職員や建設業者、あるいは普天間



基地ゲート前に座り込んだ住民たちとオスプレイ配備で睨み合った沖縄県警や機動隊、ここで両サイドで向かい合った人々はどちらも沖縄の人々だったという、この相対するシーンを執拗に記録しています。観る者はこの圧倒的な事実の前に狼狽するしかないとはいえ、単なる衝撃としてだけで受け止めることはできません。それは私たちの問題として受け止めていなかったことを意味するからです。

アメリカでは、1950年代半ばから、M・L・キング牧師（本学キャンパスに胸像があります）を中心としたいわゆる黒人市民権運動が南部からアメリカ全土へと展開することによって、黒人たちの権利を回復する結着点に到達することができました。これは、南部以外の地域の人々が、当時新しいメディアであったテレビの報道によって、南部社会における黒人たちへの凄絶な差別と暴力をようやく目の当たりにし、それまで見えなかった（正しくは見ようとしなかった）南部の現実には衝撃を受けたことも市民権運動のエネルギーとなったからでした。

建設や配備に反対する住民たちの投げかける声に、表現できない複雑な表情を浮かべて立っているしかない職員や業者、強制排除を執行するしかない警官たちは、この作品を観ている私たち自身であるような気がしてなりません。もちろん、黒人たちに暴力を揮っていたアメリカ南部の警官とは違い、住民たちが本当に対峙しているのは彼らではなく彼らや私たちの後ろにいるわけですが、これが最大にして超克的な問題です。

ヘリパッドが建設されオスプレイが配備されてしまっただけで仕方がないで終わるはずもなく、また基地がなくなることでも終わりでない沖縄の「基地問題」に意識的であり続けること、それは私たちの責任なのだというメッセージをもらいました。

（現代英語学科教授／アメリカ研究）

2015年に学校法人長崎学院が創立70周年をむかえるにあたり、今回は70周年のテーマ「世界の平和」に関連した映画評を、2014年11月30日長崎銀屋町教会での上映会に参加された山川先生に執筆していただきました。

（編集部）



スポニチアネックス(2013年6月17日)より

やま かわ きん や
山 川 欣 也

施設設備充実に関わる寄付事業

《創立70周年記念事業》

学校法人長崎学院は、2015(平成27)年12月1日に学院創立70周年を迎えるにあたり、教育研究に資するための施設設備充実を目的とした寄付事業を2014(平成26)年4月1日から行なっています。

既に2013(平成25)年度から採択性補助金事業の獲得によるラーニング・コモンズやアクティブラーニング設備の導入など、教職員一丸となって鋭意努力を重ねておりますが、今後いっそうの教育研究に関する施設設備の充実が必要と考えております。

皆様におかれましては、「キリスト教精神に基づき、外国語と国際文化に関する知識を教授研究し、国際的な視野と円満な人格の涵養を図り、もって地域並びに人類社会の福祉と発展に寄与しうる人材を育成することを目的とする」という建学の精神にご賛同いただくとともに、厳しい経済環境の中、誠に心苦しく存じますが、施設設備充実のための寄付事業にご支援を仰ぎたく、ここに謹んでお願い申し上げます。

寄付に係る税金の優遇制度について

寄付をされると次の要領で税金が戻ってきます。詳しくは、法人事務局財務課までお問い合わせください。

個人様：寄付金が2千円を超える場合は、超えた金額に40%を乗じた金額が税額控除されます。

【(注)：寄付金額は年間総所得金額の40%、税額控除は所得税額の25%がそれぞれ限度額となります。】

法人様：受配者指定寄付金によって、日本私立学校振興・共済事業団を通じて寄付していただきますと、法人税法上、その寄付金を全額損金へ算入できます。

【事前の手続きが必要ですので、寄付の際は大学にお申し出ください。】

ご寄付のお申し込みについて

お電話またはメールで、ご住所、お名前をお知らせください。

法人事務局より募金趣意書、払込用紙等をお送りいたします。

お問い合わせ先

学校法人長崎学院 長崎外国語大学 法人事務局 財務課 (担当：榎本)

Tel 095-840-2003(法人財務課直通)

Email keiri@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp

図書等教育環境充実に関わる寄付事業のお礼

平成24年度から開始いたしました「図書等教育環境充実に関わる寄付事業」は、平成26年9月末を以って終了いたしました。この間384件5,748,380円のご支援をいただき、同窓会、保護者会、在学生保護者、取引先をはじめと多くの皆さまからのご支援に深く感謝申し上げます。

大学では現在、図書の選定作業を進めており、皆様の温かいご支援にお応えすべく、学生の教育環境および図書の充実を図って参ります。

寄付者ご芳名一覧 平成26年4月～平成26年9月ご寄付分

岩永守弘 小 道 隆 野田和彦 森田明博 (50音順、敬称略)

たくさんの温かいご支援ありがとうございました。



フェアトレード推進サークル「NEST」が、毎年実施している“キャンドルナイト”。今回のテーマは“Mother earth”。キャンドルの幻想的な灯りに包まれ、人のぬくもりに感謝する催しとなりました。

イベントでは、アカペラやベリーダンス、琴の演奏も行われました。

(2014.12.17)